

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート概要(令和3年度事業分)

施設名 山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮
 所管課 福祉保健部 障害福祉課
 指定管理者 社会福祉法人山梨県障害者援護協会

1 指定管理者の推移

導入年度	平成18年度			
指定管理者名	出資法人	指定期間		委託料総額 (単位:円)
社会福祉法人山梨県障害者援護協会		H18.9.1	～ H28.3.31	9年 7カ月
社会福祉法人山梨県障害者援護協会		H28.4.1	～ R3.3.31	5年
社会福祉法人山梨県障害者援護協会		R3.4.1	～ R7.3.31	4年

2 施設の概要

所在地	韮崎市旭町上條南割3251-1
設置年月日	昭和48年4月1日
設置根拠 (法律、条例等)	山梨県立障害者支援施設設置及び管理条例
設置目的	身体障害者に必要な指導及び訓練を行い、自立した日常生活や社会参加を図るため。
主な業務の内容	(1) 施設等の維持保全に関する業務 ・施設及び設備器具の維持保全に関する業務を行う。 (2) 利用者に対する障害福祉サービス業務 ・生活介護、短期入所、自立訓練(機能訓練)及び施設入所支援に係る業務を行う。
主な施設内容 (定員等)	○敷地面積:9,060㎡ ○建築延べ面積:3,194.32㎡ ○施設の内容 ・肢体不自由者更生施設棟(鉄筋コンクリート造平屋建)3,002.29㎡ ・温室(鉄骨造平屋建)110.25㎡ ・農作業保管庫・陶芸室(鉄骨造平屋建)81.78㎡ ○各障害福祉サービスの定員 ・生活介護:45人 ・短期入所:15人 ・自立訓練(機能訓練):15人 ・施設入所支援:40人
備考 (改築工事等の状況、一括管理施設等)	

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート概要(令和3年度事業分)

3 指定管理業務に係る収支状況

(単位:円)

年度 項目	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考
収入合計	209,126,818	208,388,619	211,938,988	216,532,445	210,165,342	
支出合計	193,130,661	202,203,273	208,079,894	205,831,099	211,008,777	
収支差額	15,996,157	6,185,346	3,859,094	10,701,346	△ 843,435	

4 利用状況、利用者満足度の状況

	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度	備考
利用実績	110人	105人	107人	106人	103人	各障害福祉サービスの月平均利用者数
利用者満足度	◎	◎	◎	◎	◎	「満足」又は「どちらかといえば満足」の合計 ◎:80%以上 ○:60%以上80%未満 △:60%未満

5 運営目標の達成状況(令和3年度)

協会が策定した「第四次中期経営計画」(平成29年度～令和3年度)、「社会福祉充実計画」(平成29年度～令和3年度)及び施設の管理運営方針に則って、実施事業である自立訓練(機能訓練)事業、生活介護事業、施設入所事業及び短期入所事業において、利用者に安心・安全でより質の高いサービスを提供した。

自立訓練事業では、脳血管障害を有する障害者は介護保険サービスが優先されるため、利用者の確保が難しく、令和3年度は定員15名のところ10名前後の利用に留まった。利用者確保に向け、リハビリ病院等関係機関への働き掛けを継続的に行い、関係性を強化している。利用期限が1年6ヶ月と限定されているため常に定員を満たすことは難しいが、引き続き関係機関との連携を密にしている。「社会福祉充実計画」の職員体制の強化事業により、理学・作業・言語療法士が中心となり、専門的な技術向上を目指すとともに、歩行器等利用者の状況に合わせたリハビリ機器の活用により自立訓練メニューの充実を図り、さらなるサービスの向上に努めた。

生活介護事業では、利用者の高齢化・重度化による機能低下や医療の関わりが増加するとともに、支援ニーズが複雑化・多様化する中、利用者の個々の状況に応じた個別対応に努めながら、活動に参加できない利用者に短時間でも活動に参加しようと声掛けを行ってきた。新型コロナウイルス感染防止対策として、外部講師等による活動もやむを得ず中止する時期があった。保護者や地域の方々との交流を目的とした行事等も施設内での代替行事に見直すなど創意工夫を凝らしたメニューを提供し、利用者の精神的安定を図った。

医務関係では、基礎疾患を抱えている利用者が多いことから、日常生活動作や体調の変化の早期発見に努め、円滑な受診行動をとることで適切な治療を受けることができ、改めて日々の利用者や家族との関わり的重要性を確認できた。

管理面では、利用者が単独で離床する際の転倒が多くなったことから、県の介護ロボット補助金事業を活用し、センサー付き介護ベッドを昨年度に続き2台追加導入した。センサー付きベッドは離床時にナースコールへ連動し、より迅速な支援ができるようになった。

また、感染症対策にあたって、必要となる衛生用品購入及び保管等に柔軟に活用できる簡易居室を有効利用した。更に県の補助事業を活用し、利用者が集まる食堂や活動室へ高性能空気清浄機5台を設置した。

新型コロナウイルス感染予防対策では、国や県の指導及び感染状況を踏まえ、利用者並びに職員の検温など健康観察の強化、活動内容の変更や面会・外出・来所者の制限等を機会あるごとに見直しながら感染予防対策を継続してきた。特に令和4年1月から始まった感染第6波においては、県内でも複数の福祉施設からクラスターが発生し、当施設にとっても大きな脅威となったが、感染防止対策を徹底しながら利用者サービスを継続することができた。

令和3年度は、新たな指定管理期間の初年度にあたり、県からこれまでの指定管理者として一定の評価を受けたことを自覚し、蓄積されたノウハウを最大限活かすとともに、初心に返って更なる利用者支援の充実と向上に努めた。

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート概要(令和3年度事業分)

6 施設所管課による総合的な評価及び指導事項(令和3年度)

新型コロナウイルス感染症の収束が見通せない中で、感染防止対策を徹底し、施設の維持管理や利用者へのサービスの提供を適切に行っている。

本施設は、障害者入所施設であることから、施設内感染が拡大すると、利用者の健康や施設の運営等に甚大な影響が生じる恐れがあることから、職員や利用者への早期のワクチン接種を呼びかけるとともに、感染が拡大した時期には職員に原則として週1回のPCR検査を行うよう要請し、感染拡大防止を図った。また、職員や利用者に感染疑い生じた場合に、直ちに状況を報告させ、陽性が確認された場合には必要な対応を指示することとした。

また、利用者満足度調査の結果、「満足・どちらかといえば満足」の割合が94%と、高い水準を維持しており、利用者の立場に立った支援を行っている。

7 施設所管課の指導事項に対する指定管理者の対応状況(令和3年度)

基本的な感染対策や早期のワクチン接種、職員のPCR検査を実施した。また、また、感染疑いが生じた場合に直ちに関係機関に連絡することとした。結果、新型コロナウイルス感染症の影響が施設内に広がることや、運営に大きな支障が生じることもなく、利用者へのサービスの提供を継続することができた。

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート詳細(令和3年度事業分)

施設名 山梨県立あけぼの医療福祉センター成人寮
 所管課 福祉保健部 障害福祉課
 指定管理者 社会福祉法人山梨県障害者援護協会

1 利用状況 (単位:人、%)

		平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	令和3年度
利用者数	生活介護	43	42	41	42	42
	短期入所	20	18	14	14	14
	自立訓練(機能訓練)	10	8	15	13	10
	施設入所支援	37	37	37	37	37
	利用者数合計	110	105	107	106	103
	目標値	115	115	115	115	115
	実績/目標割合	95.7%	91.3%	93.0%	92.2%	89.6%
	目標値の設定方法	定員を目標値とする				
利用率	稼働率等(利用率)	95.7%	91.3%	93.0%	92.2%	89.6%
	稼働率等(利用率)の算定方法	利用者数/施設の利用定員				

2 類似施設・近隣施設

名称・施設内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・あゆみの家:自立訓練(通所 20人、夜間 20人)、短期入所(2人) ・梨の実寮:生活介護(52人)、就労移行支援(6人)、就労継続支援B型(12人)、施設入所支援(50人)、短期入所(6人) ・あさひワークホーム:生活介護(38人)、就労移行支援(8人)、就労継続支援B型(34人)、施設入所支援(40人)、短期入所(5人) ・育精福祉センター成人寮:生活介護(105人)、短期入所(9人)、施設入所支援(90人)
----------	--

3 補修工事等の状況(令和3年度) (単位:円)

県	トイレ手洗い自動水栓整備工事(育精福祉センター成人寮、育精福祉センター児童寮と併せて実施)	4,345,000
管	食堂ガラス補修	170,500
管	空調機自動制御機器交換	104,500
管	スタッフステーションドアダンパー交換	67,100
管	食堂混合水栓取替 他4件	113,030

修繕等の負担区分(基本協定書): 1件60万円未満の修繕等は指定管理者が実施
 *ただし、上記にかかわらず、県の承認により、指定管理者が修繕等を実施することができる。

4 自動販売機設置状況等(令和3年度) (単位:円)

台数	選定方法	収入割合	収入額	仕入(支出)額
1	随意契約	25円/本	147,150	
1	随意契約	30円/本	132,660	
1	随意契約	20円/本	79,060	

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート詳細(令和3年度事業分)

6 利用者満足度

実施方法等	調査対象者:入所・通所利用者(日中事業:生活介護・自立訓練利用者)対象 調査方法:聞き取り及び自己記入 調査期間:令和4年3月10日～3月17日 調査人数:52人			
	満足	どちらかといえば満足	どちらかといえば不満	不満
施設設備	57.0%	29.0%	12.0%	2.0%
プライバシーや個人情報の保護	63.0%	35.0%		2.0%
食事	40.0%	40.0%	14.0%	6.0%
職員の対応の仕方	54.0%	36.0%	10.0%	
支援内容(訓練・活動以外のこと)	56.0%	38.0%	2.0%	4.0%
訓練・活動内容(活動・訓練・療法など)	42.0%	44.0%	12.0%	2.0%
施設全般の満足度	56.0%	38.0%	6.0%	
利用者の主な意見	<p>【施設・設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 一部のトイレに手すりがないため、車椅子からの移乗に不便。 建物が広いので、移動が大変で疲れる。 居室ドアの開閉音がうるさく感じる。 <p>【食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 食事形態が栄養士からの指示内容と違うものが提供されることがある。 1か月に1回ステーキなど好きなものを注文して食べるような機会があれば良い。 自身の体調管理のため仕方ないと思うが、食事のカロリー制限があるのは辛い。 <p>【職員の対応の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援員の言い方が強い時があり、怖いと感じることがある。 入浴をしたくない日も、何回も入るようにいわれる。 ナースコールを押してもすぐに来てくれないことがある。 			
利用者の意見への対応	<p>【施設・設備】</p> <ul style="list-style-type: none"> 排泄支援を必要とする利用者が増加しているため、自力排泄が可能な方に少し離れたユニットの手すりのないトイレを利用していただく状況があるため、御理解を頂けるよう説明する。 建物構造上長い廊下となっている。(歩行訓練時は有効活用できる) 生活音にはご理解いただけるよう説明している。 <p>【食事】</p> <ul style="list-style-type: none"> 体調管理の観点から、食事形態や省エネ食の提供時には利用者の了解を得ている。 コロナ禍で外食機会が減り、特別食の提供希望が多くなったためと思われる。調理委託業者との給食委員会を定期開催し、利用者参加型で要望を反映している。 <p>【職員の対応の仕方】</p> <ul style="list-style-type: none"> 支援員の接遇に関しては、接遇向上委員会を中心に自己評価のアンケート等を実施し、改善を図る努力を行っている。 利用者に納得してもらえよう、「他の利用者に至急の支援が求められたため、やむを得ずナースコールへの対応が遅れた」等、配慮した説明を行うこととしている。 			

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート詳細(令和3年度事業分)

7 評価結果

項目	指定管理者の自己評価	施設所管課の評価
維持管理業務	<p>利用者の安全とサービスの提供が円滑に行えるよう、建物及び施設周辺を管理担当職員が主体となって設備等の保守管理に努めた。また、法定点検を含む重要設備にあつては、専門業者にメンテナンスを依頼し、維持管理に努めた。</p> <p>非常災害時等に備えた防災訓練を計画通り実施し、防災委員会で反省点や課題を検証した。水害訓練にあつては、コロナ禍のため実践はできなかったが、避難経路の動画を撮影し、職員への周知を図った。</p>	<p>概ね適正に維持管理が実施されている。防災訓練における課題の検証結果を踏まえた上で次年度以降の訓練を実施していくこと。</p> <p>また、水害訓練は新型コロナウイルスの状況を見ながら、可能な時期に行うこと。</p>
運営業務	<p>利用者及びご家族に対し、施設の基本方針や支援内容をわかりやすく説明した。</p> <p>また、利用者個々の状況と意向に沿った個別支援計画を作成し、進捗状況や振り返りも含め、適切な支援を行った。</p> <p>衛生管理面では、新型コロナウイルス感染症に対し、最大限の感染予防対策を講じるとともに、新型インフルエンザ等発生時における事業継続計画(BCP)を策定した。</p> <p>利用者の意見等を聞くための満足度調査結果の内容を支援に反映させている。</p>	<p>概ね適正に運営されている。引き続き新型コロナウイルス感染症等への感染対策に配慮しながら、適正な運営に努めること。</p>
利用状況	<p>HP又はSNSを活用した広報活動を積極的に行い、利用者確保に努めた。入所も含め生活介護事業は、利用者ニーズも高く安定した状態が保っている。</p> <p>一方、自立訓練事業は、利用期限があることから、常に定員を満たすことは困難であるが、リハビリ病院との関係性を強化し、利用者確保に努めた。また、リハビリ機器の導入とともに、理学・作業・言語の療法士間の連携や調整を深め、サービスの向上を目指した。</p>	<p>施設利用率は、概ね高い水準を維持している。引き続き利用者の確保に向けた対応を実施していくこと。</p>
収支状況	<p>収入については、自立訓練事業の利用者が減少したことから、昨年より減収となった。</p> <p>支出は、灯油やガソリン等の高騰に加え、コロナ対策の衛生消耗品備品購入などは昨年に引き続き増額となった。</p>	<p>支出額の増加については、燃料価格の高騰や新型コロナウイルス対策用物品の購入費の増加によるものであり、やむを得ないと考えられるが、他の支出に係る契約内容の再確認等を行い、可能な範囲で経費節減を心掛けること。</p>

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート詳細(令和3年度事業分)

<p>利用者満足度</p>	<p>施設全般の満足度で、94%の利用者から「満足・どちらかといえば満足」との評価をいただいた。 一方で6%の利用者が何らかの不満を感じており、アンケート調査の実施や利用者への積極的な声かけなどにより、生の要望を集め、満足度の維持・向上に努めていく。</p>	<p>施設利用者の満足度は非常に高いものとなっている。引き続き利用者の立場に立った運営を行うとともに、改善が可能な要望への対応を検討していくこと。</p>
---------------	---	---

8 施設所管課による定期評価結果

<p>施策推進業務の内容</p>	<p>評価</p>	<p>改善内容</p>
<p>施設利用者の満足度向上のための取組み</p>	<p>利用者満足度調査結果の「施設全体の満足度」における「満足・どちらかといえば満足」の割合を評価指標として、目標値を80%と設定。 職員会議等における調査結果の共有や利用者への丁寧な説明等を行い、「満足・どちらかといえば満足」の割合が94%となって、目標を達成した。</p>	<p>満足度調査結果の分析や職員による検討会を行う等、引き続き利用者の要望に可能な限り対応するとともに、他の項目と比較して「満足・どちらかといえば満足」の割合が低い「食事」等については、可能なことについて改善を図り、改善が困難なことについては、利用者丁寧に説明し理解を得るよう努めること。</p>
<p>感染症対策</p>	<p>本施設は入所施設であることから、施設内に新型コロナウイルス感染症の感染が拡大すると、利用者の健康や施設の運営等に甚大な影響が生じる恐れがあるため、職員や利用者への早期のワクチン接種を呼びかけるとともに、感染が拡大した時期には、職員に原則として週1回のPCR検査を行うよう要請した。 PCR検査検体の提出日における提出割合を評価指標とし、目標値を100%と設定。 結果、提出割合は100%となったこと等により、施設内での感染拡大は発生せず、運営に支障を来すことはなかった。</p>	<p>今後のワクチン接種等の状況の推移を見ながら引き続き感染対策を実施していくこと。また、感染者が発生した場合の対応内容について確認しておくこと。</p>

指定管理施設の管理運営状況評価(モニタリング)シート詳細(令和3年度事業分)

9 管理体制(組織図)

令和3年4月1日現在

